

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0194100392		
法人名	株式会社 優輪		
事業所名	グループホームよしえの郷 1階		
所在地	釧路市春採6-4-24		
自己評価作成日	平成 28年2月29日	評価結果市町村受理日	平成28年4月22日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigvosyoCd=0194100392-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ		
所在地	江別市大麻新町14-9 ナルク江別内		
訪問調査日	平成28年3月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

春採湖を眼下にする高台で静かな住宅地に立地した2ユニット2階建ての建物となっています。「のんびり本人らしく生き活き」という理念を掲げて家庭的でアットホームなグループホームです。入居者様の事を第一に考え最期まで本人らしく生き活きと暮らして頂ける様に日々努力しています。ご家族様、ご本人様の負担を考え、敷金、礼金、一時金は頂いておりません。生活保護者の受け入れをしております。ケア面では、看護師常駐での医療行為が必要とならない限り、医師、家族様、管理者が同意の下、看取りの介護を行っております。取締役の中に看護婦(訪看)がおり、来訪時に入居者様の状況を伝えることが出来るため、情報交換を密に計ることが出来る。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

閑静な高台の住宅地にある木造2階建ての事業所で、眼下に春名湖を望むことが出来、海が見渡せるなど自然環境に恵まれ、近くにはスーパー、病院などがあり、生活環境にも恵まれている。職員と利用者は明るく穏やかで信頼関係が出来ており、利用者は居室に籠ることなく居間にいる時間が長く、台所の匂い、テレビの音、話し声や笑い声等を聞きながらそれぞれの居場所で、思い思いにのんびりと過している。利用者は地域の祭り、盆踊りなどに参加して交流し、インターンシップで中学生が体験学習に来て交流している。「通信たより」を通して家族宛てに、担当職員が個別に利用者の日常の様子などを伝えて家族との関係を密にして、意見や要望は直ちに実践するよう努めて家族との信頼関係に結びつき、家族が除雪機械を持ち込み除雪に協力している。管理者と職員は何時でも相談がしやすい雰囲気、ケアの統一を図り、ケアに取り組む姿勢は利用者や家族からの信頼関係に繋がり、家族、医師、看護師と連携・協力しながら看取りも行っている。管理者と職員は家族の絆を大切に、利用者の尊厳を守り、日々穏やかな暮らしが出来るように支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別紙4-1)

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に基づき、少しでも多く実践できる様に努力している。	理念は運営理念と基本方針に分かれていて、地域密着型の意義になっている。管理者と職員は理念を共有し、理念に基づくケアを日々の実践に繋げている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の夏祭りや盆踊りに参加し、ホームでの夏祭りに参加して頂いているが、日常的な交流とまではいたっていない	町内会に加入し、総会や盆踊り、夏祭りに利用者と一緒に参加して交流している。事業所の夏祭りには毎年地域住民の参加があるが、今年度は不幸があり夏祭りが取りやめとなっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	社長が認知症サポーター養成講座の講師となり、認知症の理解を地域の方に発信している。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事故報告や行事、取組みについて報告。町内会長、婦人部長、ケアマネージャー、ご家族様と話し合いを行いサービス向上に活かしている。	年6回、町内会長、婦人部長、地域包括支援センター職員、家族などが参加して運営推進会議を開催しており、事業所の現状や利用者の生活状況、事故報告などを行って、意見や助言を得て、サービス向上に活かしている。	運営推進会議に家族の参加と地域住民の参加が少ないので、家族に参加を呼びかけたり、地域には案内文を持参しながら理解を深めて参加を呼びかけ、参加者が増えることを期待する。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事故報告、体制変更時、わからない事がある時は連絡をとり、色々と教えて頂いている。	管理者は日頃より電話・ファックス等で連絡しているが、管理者が窓口に出向き相談を行いながら協力関係を担っている。運営推進会議の後で地域包括担当者とも相談、情報を得ている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は夜間以外はしていない。スピーチロックにも配慮し、常に拘束をしないケアを徹底している。	小さな拘束でも見逃さずに職員はお互いに注意し合って、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。センサーは家族の了解の下使用している。施錠は夜間のみ行なっている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についてホーム内で勉強会を開くことで、職員同士で虐待に関してのケアの見直し、情報交換をして防止に努めている。			

グループホームよしえの郷 1階

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会はなかったが、必要と思われる方にはサービスの説明をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約、改定時には十分に説明を行い理解、納得を得る努力をしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見、要望は都度職員皆で話し合い共有している。苦情ボックスを設置している。	日常の会話などから利用者の意見、要望の把握に努め、家族の来訪時に意見や希望を聞き、来訪の少ない家族には電話や郵送(返信用同封)で聞いている。ケアに関する意見や要望は直ちに実践しており、家族との信頼関係に結びつき、家族が事業所の除雪に協力している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ゆっくりと聞く機会を設ける事が出来なかった。	各階の主任は、日常の会話やカンファレンス中に職員から話(有給・ケアの問題・悩み等)を聞いて管理者に上げ検討している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	向上心を持って働ける環境、条件に当てはまらない。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修参加は希望者は参加できる。研修の案内が届いたときに声を掛け積極的に参加して頂いている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所との研修に参加する事で交流を得ることが出来た。又、研修の中で他事業所訪問の了承を得る事も出来た。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人やご家族様からよく話を聞き、職員同士でも情報を共有しより良い信頼関係を築く努力をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用の際には、困っている事、不安な事、要望を聞き、その後も都度話し合いをして関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームの中で使えるサービス利用も含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の中で喜怒哀楽を共にし、食事の準備や片づけなど無理のない範囲で出来る事はして頂いている。職員が人生の先輩である利用者から教えてもらうこともあり、支え合う関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族に協力してもらえることをお願いし、ご家族がご本人にしてあげたくても出来ない事を職員が代わりにしたりして、本人を共に支え合う関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人がいつでも遊びに来て下さったり、馴染みだった場所に時々は連れて行ってあげたりと馴染みの関係が継続できるように支援している。	馴染みの理容師が来訪し、安い料金で女性のカットや染めもしている。町内会の盆踊りや地域の小さなお祭りにも参加できるように支援して、馴染みの関係が途切れないよう努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立しない様に関係を把握し、職員が仲介に入り、支え合えるような関係づくりに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今までに前例がない。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時や常時希望、意向を聞いている。また、困難な場合はご家族にお聞きし、その人らしく生活が出来るよう支援している。	個々の生活歴を把握しながら利用者から意向を聞いている。困難な場合は、家族から聞きとって本人本位に支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、家族から出来るだけ多く情報を集めて少しでも多く把握できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケアプランに沿って一日の過ごし方を考えている。また、心身の状態がいつもと違うような時には別紙に記録をとり状態を把握している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族様の想いを大切に、職員皆で話し合い介護計画を作成しているが、ご家族様からの意見はあまり聞かれていない。	利用者、家族の意向を反映させ、カンファレンスに於いて担当者がモニタリング会議で話し合いが行われ、計画作成担当者が、現状に即した介護計画を作成し、家族の確認を得ている。状況に変化があればその都度見直すこととしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の申し送りで情報を共有。また会議にて話し合い介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に応じて色々なサービスを検討し、モニタリング、アセスメントをしてプランの変更をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	出来る限り安全で豊かな暮らしを楽しむ事が出来る様支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、ご家族の希望に添って、かかりつけ医による適切な医療を受けている。	本人、家族の希望に添ったかかりつけ医に受診できるよう支援している。通院は家族が行うがヘルパーや介護タクシー利用もある。診療連絡ノートに記入して状態を共有している。訪問医は月4回以上来所しており、体調の悪い利用者がいれば、現状を伝えている。	

グループホームよしえの郷 1階

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月に2回、訪問看護師に来て頂きアドバイスを受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	都度情報収集を行い、かかりつけ医と連携し早期退院や良好な関係作りが出来るよう努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	会議にて職員間で方針を共有している。段階に合わせてご家族様、主治医、管理者で話し合いを行い方針を共有している。	看取りの指針に沿ってマニュアルを作成し、家族に説明している。ターミナル時は家族・医療関係者・管理者で話し合い職員と共有してチームで支援に取り組んで。緊急時に近隣の管理者が駆けつける態勢となっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に一度訓練を行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練の回数を増やし、訓練は抜き打ちでレベルアップを図っている段階。町内にも協力して頂ける様声をかけている。	消防職員立ち合いの下、夜間想定も取り入れながら年3回行っている。地域住民も参加し、役割を決めて協力している。事業所独自の抜き打ち訓練も行っている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	慣れが出ている部分もあったが、羞恥心やプライドを損ねない様支援は心掛けている。	トイレ誘導はさりげなく行ない、利用者の人格とプライバシーを守り言葉かけに配慮して支援している。接遇で不都合があれば話し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	なるべく自己決定出来るよう、やる気が出てくるような声掛けを心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	なるべく一人一人のペースを大切にした対応をし、希望に沿った支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	今までの生活歴や関わりを参考に支援している。		

グループホームよしえの郷 1階

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者のペースに合わせ準備、片づけをしている。食事内容も個々に合わせ刻み食とし、食べたいものの希望は数日中に叶える様になっている。	献立表は利用者の嗜好や、季節食、行事食などを取り入れて職員が作成している。利用者の健康状態により刻み食にも対応し、畑の旬の物も食卓に上がり外食支援も行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量の少ない方は栄養補助品等で補い水分量が確保できる様人によっては水分、排泄表を活用し水分確保に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛け、介助にておこなっている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	必要な方は排泄表をつけ自立にむけた支援を行っている。	排泄の自立を目標にしており、必要な人には排泄表を作り自立に向けた支援を行っている。睡眠を大切にするために夜間のみトレパンを使用している利用者もいる。自立支援により少しづつ歩ける人もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	予防に取り組んでいるが、それでも便秘がちな方には個々にあった下剤、整腸剤にて便秘にならない様調整している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人一人の希望、タイミングに合わせて入浴を楽しめる支援をしている。	週2~3回入浴する。拒否のある利用者には無理強いせずタイミングを見ながら翌日に延ばす事もある。風呂好きな方には希望に沿うよう支援を行っている(二人介助の利用者もいる)	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣や、その日その時の心身の状態を把握する事で、安眠や休息に繋がる支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬処方時は服用薬品名カードを必ずファイルし、職員みんなが目を通し理解して、症状の変化にもすぐに対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力、生活歴、またご本人から希望を聞く等して、ひとりひとりの楽しみや気分転換の支援をしている。		

グループホームよしえの郷 1階

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	重度化の為、希望がほとんどないが、ご本人の状態で出掛けるよう支援している。	公園に花見や、海岸に行ったり、ドライブに行ったりしている。車いすの人も一緒に外気浴ができるように誘導しており、出不精の利用者に声かけし出かけられるように支援している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持することで満足を得、安心されることもある。ご家族とも話し合い、個々の能力に応じて買い物の際に使えるように支援している。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族との電話の希望があれば都度電話で会話してもらい、安心して頂いている。また、ご家族からもご本人への電話は自由につないでいる。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合った花や飾りつけをしたり、混乱を招く事のない様に配慮している。	共有空間は清潔に保たれ、居間の壁を利用して季節感を感じられる飾りつけをしており、台所からは食事の支度の音や匂い等生活感があり、利用者も居室に籠ることもなく、それぞれが好きな場所で思い思いに長時間寛いでいる。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下に椅子を置き、そこでくつろがれたり、ソファや自室と個々が思い思いの場所でくつろがれている。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室は馴染みの物品を置き、その都度ご本人、ご家族様と相談しながら安心出来る様に工夫している。	居室にはクローゼットが設置されており、使い慣れた馴染みのタンス・鏡台・テレビ・小物類・写真などを持ち込み、家族と配置を考えて居心地よく暮らせるようにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりをつけたり、貼り紙をしたりと工夫している。			